

とくしま教員育成指標

〈改訂版〉

令和5年2月

徳島県教育委員会

目 次

I	とくしま教員育成指標策定	1
	1 策定の背景及び趣旨	
	2 改訂（一部改訂）・再整理について	
II	とくしま教員育成指標の基本方針	3
	1 目的	
	2 本県が目指す教員像	
III	とくしま教員育成指標の内容	3
	1 対象職種等について	
	2 キャリアステージについて	
	3 求められる資質・能力について	
IV	とくしま教員育成指標の活用例	7
V	とくしま教員育成指標を踏まえた教職員研修	7
	とくしま教職員研修体系	
	とくしま教員育成指標	
	1 小学校教諭用	
	2 中学校・中等教育学校（前期）教諭用	
	3 高等学校・中等教育学校（後期）教諭用	
	4 特別支援学校教諭用	
	5 養護教諭用	
	6 栄養教諭用	
	7 管理職用	

I とくしま教員育成指標策定

1 策定の背景及び趣旨

学校現場においては近年、教員の大量退職・大量採用等の影響により、年齢構成や経験年数の不均衡が生じ、先輩教員から若手教員への知識・技能の伝達が困難な状況となるなど、教員を巡る環境が大きく変化している。

また、グローバル化や情報化の急速な進展等、世の中が急速に変化する中であって、こうした状況を踏まえた新しい時代の教育に対応し、学習指導要領の趣旨を実現するための教員の資質向上に向けた環境を整える必要がある。

平成28年11月、教育公務員特例法の一部改正法が公布され（施行は平成29年4月1日）、教員の養成・採用・研修を通じた新たな体制の構築等のため、公立の小学校等の校長及び教員の任命権者は、大学等からなる協議会における協議を経て、文部科学大臣が策定する指針を参酌しつつ、地域の実情に応じ、教員等資質の向上に関する指標を策定するとともに、指標を踏まえた教員研修計画を定めることとされた。

こうした状況を踏まえ、徳島県教育委員会は、大学・市町村教育委員会・学校・企業関係者及び徳島県教育委員会事務局関係者で組織する「とくしま教員育成協議会」を設置して協議を行い、教員等が高度専門的職業としての職責、経験及び適性に応じて身に付けるべき資質・能力を明確化するため、平成30年1月に「とくしま教員育成指標」を策定した。

2 改訂（一部改訂）・再整理について

(1) 平成31年2月一部改訂

平成30年7月、文部科学省からの通知「成年年齢引き下げを見据えた環境整備」において、「公民科及び家庭科をはじめとした教員の養成課程、免許状更新講習、教員研修において、消費者教育に関する内容を積極的に取り入れるように努めること。」が明記された。

それを受け、本県においても小学校から高等学校、特別支援学校まで、それぞれの発達段階に応じた教育の中で、「消費者教育」及び「主権者教育」に関する事項を、本指標における教員の資質・能力の中に明確に示すこととし、「とくしま教員育成協議会」での協議を経て、平成31年2月に一部改訂した。

(2) 令和2年2月一部改訂

令和元年8月、徳島県教育委員会は新たな時代に挑戦する本県教育の方針として、令和元年度から令和4年度までを推進期間とする「徳島教育大綱」を策定した。

それを受け、本指標の基本方針における「本県が目指す教員像」を、新たな「徳島教育大綱」に合わせる形で、令和2年2月に一部改訂した。

(3) 令和4年2月一部改訂

令和3年1月、中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）」の中で、Society5.0時代における教師及び教職員組織の在り方について、県教委等が定

めている育成指標において、ICT活用指導力を明確化すること等を通じて、県教委等の研修をより体系的かつ効果的に実施することが明記された。

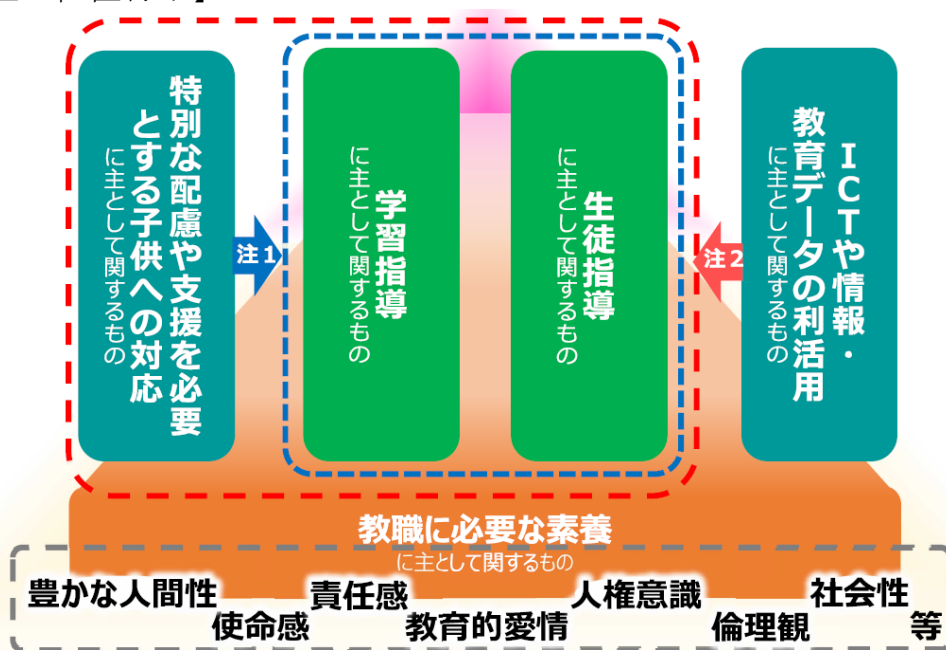
さらに、多様な子どもたちを誰一人取り残さない個別最適な学びと協働的な学びを目指した「徳島県GIGAスクール構想」の実現を図るため、ICT活用に対する姿勢や力を本指標における教員の資質・能力の中に明確に示すこととした。

(4) 令和5年2月再整理

令和4年8月、より効果的な教師の資質向上を図るため、「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」が改正された。

その中で、教師に共通的に求められる資質・能力を、「①教職に必要な素養」「②学習指導」「③生徒指導」「④特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」「⑤ICTや情報・教育データの利活用」の5つの柱で再整理し、教員研修計画の整備等、教員等としての資質の向上を推進する体制整備に取り組む重要性が示されたことを受け、令和5年2月に再整理を行った。

【5つの柱の位置付け】



※ 上記に関連して、マネジメント、コミュニケーション（ファシリテーションの作用を含む）、連携協働などが横断的な要素として存在

注1) 「特別な支援・配慮を必要とする子供への対応」は、「学習指導」「生徒指導」を個別最適に行うものとしての位置付け

注2) 「ICTや情報・教育データの利活用」は、「学習指導」「生徒指導」「特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」をより効果的に
行うための手段としての位置付け

「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針の改正（令和4年文部科学省告示第115号）」より

「①教職に必要な素養」はあらゆる教育活動を根底から支える。また、「④特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」に関する資質・能力は「②学習指導」や「③生徒指導」の個別最適化に寄与し、「⑤ICTや情報・教育データの利活用」に関する資質・能力は、これらの指導（②・③）と個別最適化をより効果的に行うための有効な手段となる。

Ⅱ とくしま教員育成指標の基本方針

1 目的

本県の教員一人一人が自身のキャリア段階を想起できる共通の「指針」、管理職等のマネジメントによる人材育成の「道しるべ」を示すことにより、教員が教職生活全体を通して、効果的・継続的に学び続ける意欲を喚起する。

2 本県が目指す教員像

「徳島教育大綱」における基本方針、「未知の世界に果敢に挑戦する、夢と志あふれる『人財』の育成」を目指し、主体的に学び続け自己を高める教員

Ⅲ とくしま教員育成指標の内容

1 対象職種等について

小学校教諭，中学校・中等教育学校(前期)教諭，高等学校・中等教育学校(後期)教諭，特別支援学校教諭，養護教諭，栄養教諭，管理職

2 キャリアステージについて

「採用時に本県が求める姿」をスタートに，成長段階を大きく3ステージに分けている。ただし，第2ステージは，キャリアアップの目標をより明確に意識し，段階的にミドルリーダーとしての資質・能力の定着を図ることができるよう，さらに2つに分けている。

なお，教員等のキャリアアップには個人差があるため，経験年数や年齢によって一律に分けて示すのではなく，学校現場や個人の状況・役割等に応じて，現在の自分がどこに当てはまるのかを判断したり，資質・能力の向上を図ったりする際の目安とする。

○採用時に本県が求める姿【養成期】

教員として児童生徒を教育する意欲をもち，教育活動に取り組むための基礎的な知識・技能と幅広い教養を身に付けている姿を目指している。

○第1ステージ【基盤形成期】

学習指導や生徒指導・学級経営についての実践的指導力を磨き，教職生活の基盤を固めている。組織の一員として，他の教員と積極的に関わり，業務を誠実に遂行する中で，自身が果たすべき役割への自覚を高めている。また，保護者や地域社会と関わる習慣と，実践を振り返り改善する習慣を身に付けている姿を目指している。

○第2ステージ【前半：伸長・充実期 後半：深化・発展期】

実践的指導力に関する専門性を高めるとともに，ミドルリーダーや次世代学校リーダーとしての推進力を発揮している。

ステージ前半では，若手教員を支援したり，校内のグループリーダーとして他の教員と連携したりしながら業務を遂行する中で，ミドルリーダーとしての役割と責任を自覚している姿を目指している。

ステージ後半では，次世代学校リーダーとしての役割と責任を自覚するとともに，リーダーシップを発揮し，前半に身に付けた力を組織の活性化に向けている。学校

の教育活動の中核として、学校や地域の抱える課題の解決や人材の育成に向けて働きかけ、活動を推進している姿を目指している。

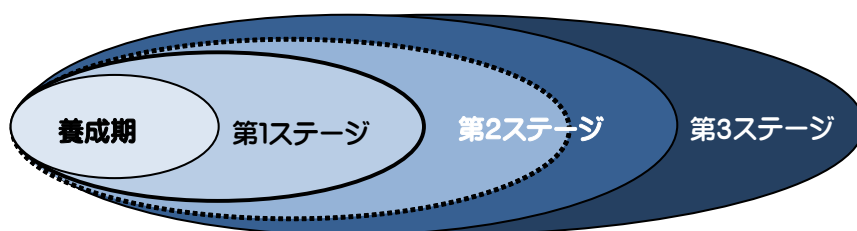
○第3ステージ【熟達期】

経験に裏打ちされ、熟練した実践的指導力をもとに、範を示すなど、後進の育成に当たっている。学校全体を支えるリーダーの一人として、これまでの豊富な経験を生かし、広い視野で組織的な運営・経営を行っている。

また、学校を活性化するための体制や環境づくりを推進している。さらに、家庭や地域との協働活動における自身の役割を意識して行動している姿を目指している。

※ 全ての成長段階を一律に分けるのではなく、2段階、3段階、4段階と柔軟に示している。

※ 各ステージで身に付けた資質・能力が基礎となり、その上に次のステージの資質・能力が加わっていく「資質・能力のグラデーション」となっている。



※ 管理職については、資質・能力向上の状況をステージで捉えるのではなく、「校長」「副校長」「教頭」という職位で分けて示している。

3 求められる資質・能力について

求められる資質・能力については、各校種・職種（管理職は除く）とも、現行のとくしま教員育成指標の柱も生かしつつ、前述の「5つの柱」との対応を図り、次のように設定した。

文部科学省が示す柱	とくしま教員育成指標の柱（校種・職種）
①教職に必要な素養	○素養（全校種・職種）
②学習指導	○授業力・学習指導（全校種・教諭） ○専門的職務実践力・学習指導（全校種・養護教諭及び栄養教諭）
③生徒指導	○担任力・生徒指導（全校種・職種）
④特別な配慮や支援を必要とする子供への対応	○特別な配慮・支援（特別支援学校教諭以外） ○特別支援の充実（特別支援学校教諭）
⑤ICTや情報・教育データの利活用	○ICTの利活用（全校種・職種）

また、[管理職用]については、現行のとくしま教員育成指標において「素養」と「学校マネジメント力」の2つを柱として設定しており、引き続き用いることとした。「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針の改正（令和4年文部科学省告示第115号）」に記載された、校長に求められる基本的な役割である「学校経営方針の提示」「組織づくり」「学校外とのコミュニケーション」と、これらの役割を果たすためのマネジメント力、アセスメント力、ファシリテーション力が、現行の指標に十分記載されていると判断したためである。

なお、各校種・職種における柱は、具体的に次のように構成されている。

○小学校教諭，中学校・中等教育学校(前期)教諭，高等学校・中等教育学校(後期)教諭

素 養	「使命感・倫理観」「識見・学び続ける力」「社会性・コミュニケーション力」「学校組織マネジメント力」「連携・協働力」「危機管理能力」
授業力・ 学習指導	「カリキュラム・マネジメント力」「授業構想力」「授業実践力」「授業省察力・改善力」
担任力・ 生徒指導	「児童生徒理解・指導力」「集団づくり力」「課題解決力」「未来ビジョン育成力」
特別な配慮 ・支援	「個に応じた指導・支援力」「チームによる実践」「 <u>「わかった」「できた」を育む*</u> 学習支援力」「 <u>「わかった」「できた」を育む*</u> 生活支援力」 *高等学校・中等教育学校（後期）においては <u>多様性に基づく</u>
I C Tの 利活用	「I C Tを学習指導に利活用する力」「I C Tを効率的な業務の遂行に活用する力」

○特別支援学校教諭

素 養	「使命感・倫理観」「識見・学び続ける力」「社会性・コミュニケーション力」「学校組織マネジメント力」「連携・協働力」「危機管理能力」
授業力・ 学習指導	「カリキュラム・マネジメント力」「授業構想力」「授業実践力」「授業省察力・改善力」
担任力・ 生徒指導	「幼児児童生徒理解・指導力」「集団づくり力」「課題解決力」「未来ビジョン育成力」「目標の明確化・実態把握力」「チームによる組織力」
特別支援の 充実	「センター的機能の推進力」「地域貢献力」

I C Tの 利活用	「I C Tを学習指導に利活用する力」「I C Tを効率的な業務の遂行に活用する力」
---------------	--------------------------------------------

○養護教諭用

教諭用の育成指標の「授業力・学習指導」の部分で、「専門的職務実践力・学習指導」として、次の資質・能力を位置付ける。

専門的職務 実践力・ 学習指導	「保健管理」「保健教育」「健康相談」「保健室経営」「保健組織活動」
-----------------------	-----------------------------------

○栄養教諭用

教諭用の育成指標の「授業力・学習指導」の部分で、「専門的職務実践力・学習指導」として、次の資質・能力を位置付ける。

専門的職務 実践力・ 学習指導	「教科等における教育指導」「個別的な相談指導」「学校給食の管理」「食に関する指導と学校給食の管理の一体的な展開」「食育コーディネーターとしての連携・調整」
-----------------------	-------------------------------------------------------------------------------

○管理職用

素 養	「使命感・責任感」「倫理観」「リーダーシップ・決断力」「先見性・識見」「社会性・人間関係構築力」
学校マネジメント力	「企画経営力」「組織づくり力」「危機管理能力」「学校資源整備・活用力」「人材育成力」「連携・交渉力」「職場環境づくり力」「特別支援教育推進力」

※「担任力・生徒指導」は、児童生徒一人一人を大切に、個性や可能性を伸長・発揮させるために、学級（ホームルーム）の経営はもとより、学年、委員会活動、部活動等、児童生徒が活動する集団の担任として、全ての教員に求められる資質・能力である。

※特別支援学校教諭の「特別支援の充実」は、障がいのある児童生徒一人一人に応じた支援・配慮を全ての指導場面で実施することから、全ての教員に特別支援に関する一層の専門性向上が求められており、新時代の特別支援教育を担うために必要な資質・能力として、新たに示した。

※「未来ビジョン育成力」は、学ぶこと・働くことの意義や社会の形成における自己の役割を理解し、将来を描き課題解決に向けて主体的に行動する力を児童生徒に育成するために、キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点に立ち、教育活動を展開する資質・能力である。徳島教育大綱に示されている「未知の世界に果敢に挑戦する」力の育成と大きく関わる。

※主幹教諭については、各校種の教諭用の指標における「第3ステージ（熟達期）」の資質・能力に加え、管理職用の指標における「教頭」につながる資質・能力を有しているものとする。

※指導教諭については、各校種の教諭用の指標における「第3ステージ（熟達期）」の資質・能力を有し、リーダーシップを発揮しているものとする。

IV とくしま教員育成指標の活用例

管 理 職	○学校経営ビジョンに基づく、組織的な人材育成 （研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励） ○自身の現時点での資質・能力の把握と資質向上
教 員	○自身の現時点での資質・能力の把握と資質向上 ○自身のキャリアアップの目標設定の手がかり
教育委員会	○中・長期的な視野に立った計画的・組織的な人材育成 ○研修体系の構築と新たな研修プログラムの開発

V とくしま教員育成指標を踏まえた教職員研修

「とくしま教員育成指標」を踏まえて研修体系を再構築し、教職生活全体を通じて「学び続ける教員」を支えるため、新たに「とくしま教職員研修計画」を策定し、平成30年度から実施する。

◇教職員の業務に対する不安を和らげ、教職生活の円滑なスタートのための研修
採用前研修，OUR教員すだち塾

◇教職経験に応じて、必要な知識・技能等の習得のための研修
フレッシュ研修Ⅰ・Ⅱ，ジャンプアップ研修，ミドルリーダー研修
エキスパート研修（職務研修，希望研修，派遣研修 等）

◇学校や地域におけるリーダーシップを育成するための研修
リーダーシップ養成研修

◇指導技術や指導方法，担当した職務等に応じた専門性の向上のための研修
学校リーダー研修，主幹教諭研修，指導教諭研修 等

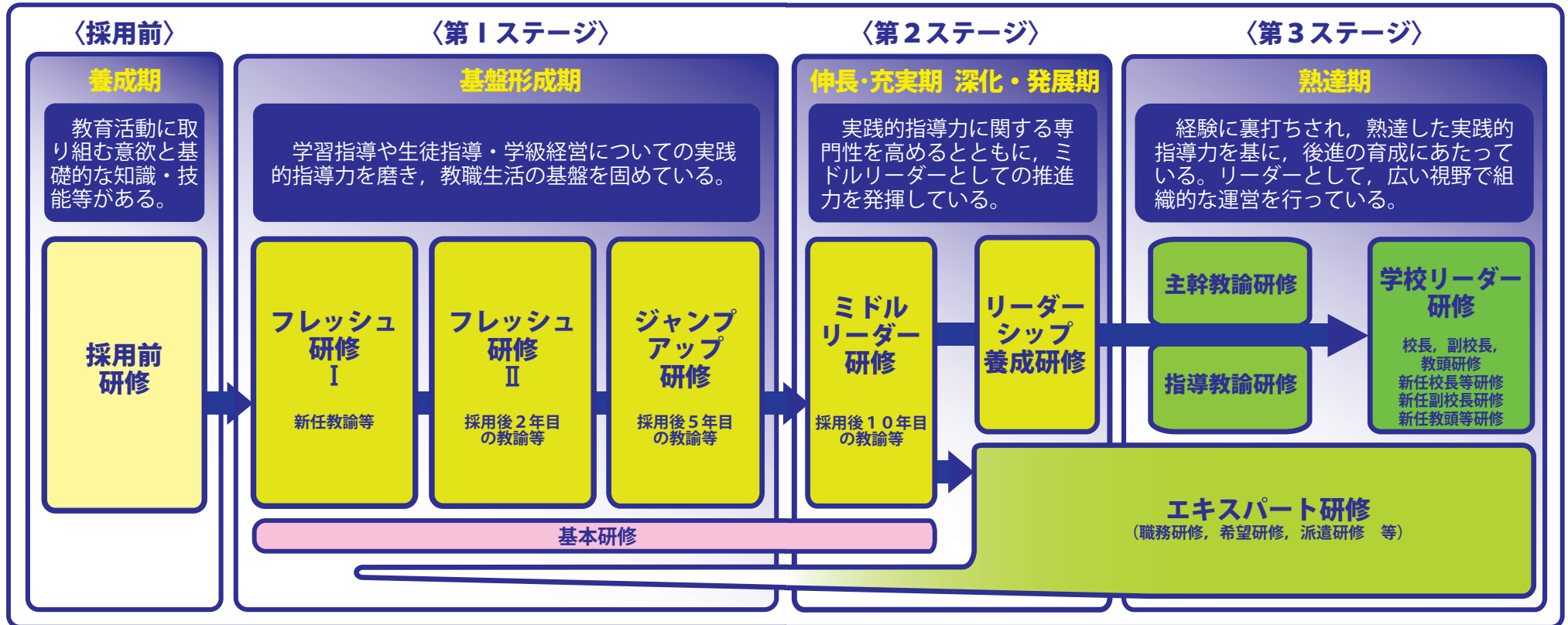
※この他にも「特別研修」「認定講習」「大学・研究機関等研修」「派遣研修」等を実施

本県における教職員研修の考え方

- ・ 教職員個々の能力，ニーズに対応し，教育実践に役立つ実効性のある研修を実施する。
- ・ 教員一人一人のキャリアステージに応じた研修を実施する。
- ・ 校内研修と校外研修を通して，自己啓発や資質向上を図る。
- ・ 若手教員の育成には「徳島型メンター制度」を活用するなど，学校全体の取組を推進する。
- ・ ミドルリーダーの育成に向けて，マネジメント力（組織マネジメント，カリキュラムマネジメント）等に関する研修を充実する。
- ・ 集合型，オンライン型やオンデマンド型等の研修形態を組み合わせ，より効果的・効率的な研修を実施する。

とくしま教職員研修体系

キャリアステージに応じた研修



目的やニーズに応じた研修

職務研修

職責・職能等に応じた知識・技能等を習得し、職務遂行の能力の向上を図るための研修講座

- 学力向上、道徳教育、人権教育、生徒指導、保健、安全、防災教育に関わる教職員の研修
- 特別支援教育に関わる教職員の研修
- 食育に関わる教職員の研修
- 事務、技師、実習に関わる教職員の研修 等

希望研修

自己の教育課題の解決のために、自由に選択して学ぶことができる。様々な教育活動に関わるニーズに応えるための研修講座

- 特別支援教育に関わる教職員の研修
- 人権教育に関わる教職員の研修 等

特別研修

喫緊の教育課題の把握と解決を図るために国や県の施策を受けて重点的に進めていく研修講座

- 英語教育に関する研修
- ICT活用に関する研修
- 防災教育に関する研修
- 人権教育に関する研修
- いじめ防止に関する研修
- あわ文化教育に関する研修
- 帰国・外国人児童生徒等に対する日本語指導研修講座 等

推薦研修

市町村教育委員会や学校からの推薦を受けて実施する研修講座

- GIGA スクール教科等研究集会
- 複式学級指導者研修講座
- 幼稚園等マネジメント研修
- 学校体育指導者講習会
- 薬物乱用防止教育研修会
- リーダーシップ養成研修 等

大学・研究機関等研修

教育活動に関する各分野の専門性を高めるために、県内大学、研究機関等で実施される研修講座

鳴門教育大学、徳島大学、徳島文理大学、四国大学、徳島工業短期大学、農業大学校、徳島県立博物館、阿南市科学センター、徳島県立牟岐少年自然の家、あすたむらんど徳島、徳島県立農林水産総合技術支援センター、徳島税務署、徳島県消費者情報センターで実施

教育職員免許法認定講習

特別支援学校の普通免許を取得するための研修講座

派遣研修

海外、文部科学省、大学、関係諸機関等、学校以外の施設に派遣され、職務上必要な専門知識・技能の習得及び社会の構成員としての視野の拡大を図る研修講座

キャリアステージ 資質・能力		採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞		＜第2ステージ＞		＜第3ステージ＞											
			基盤形成期	伸長・充実期	深化・発展期	熟達期												
A 使命感・倫理観	B 謙見・学び続ける力	C 社会性・コミュニケーション力	D 学校組織マネジメント力	E 連携・協働力	F 危機管理能力	○ 教育的愛情と熱意をもって教育活動に臨もうとしている。	○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人財」の育成を目指し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。										
						○ 社会人としての常識やマナー、道徳性(情報モラルを含む。)を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。	○ 教育公務員としての自覚をもち、法令やセキュリティポリシー等を遵守するとともに、誠実かつ公正に職責を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。										
						○ 学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○ 知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。	○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。										
						○ コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的にに関わり、助け合っている。	○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。										
						○ 自分を大切に、人権感覚を身に付け、互いに尊重し合う人間関係を築いている。	○ 児童一人一人の抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。										
						○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○ 学校の経営方針を理解し、報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。										
A カリキュラム・マネジメント力	B 授業構想力	C 授業実践力	D 授業省察力・改善力	A 児童生徒理解力	B 集団づくり力	C 課題解決力	D 未来ビジョン育成力	A 個に応じた指導・支援力	B チームによる実践	C 「わかった」「できた」を育む学習支援力	D 「わかった」「できた」を育む生活支援力	A ICTを学習指導に活用する力	B ICTを効率的な業務の遂行に活用する力	○ 家庭や地域と連携する重要性を理解し、ボランティア活動や地域の行事等へ参加している。	○ 家庭や地域との連携・協働の意義を踏まえ、家庭や地域と積極的にに関わり、協働活動に取り組んでいる。	○ 地域の教育資源(人材・施設・伝統行事等)についての情報を把握し、その活用を図っている。	○ 家庭や地域に働きかけ、教育活動を充実させるためのネットワークを形成している。	○ 地域における学校の役割を認識し、家庭や地域と協働する教育活動を推進している。
														○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。	○ 危機管理に対する意識を高め、危険を予測して行動するとともに、安心・安全に配慮した環境づくりをしている。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。	○ これまでの経験を生かし、地域と協働した創意工夫のある安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する取組を発信したり、危機管理体制づくりに参画したりしている。
														○ 学習指導要領の「目標」「内容」や系統等を理解している。	○ 学校教育目標を踏まえつつ、児童の実態に応じ、作成の意図を考えながら、学校のカリキュラムを活用している。	○ 学校教育目標を踏まえ、児童の実態や新たな教育課題に対応するため、目的や意図を明確にしたカリキュラムを提案している。	○ 学校教育目標を踏まえ、各学年間の系統や幼・小・中・高の接続を見通して、学校の特色を生かした創意工夫のあるカリキュラムを作成している。	○ 地域の実態や学校教育目標・学校の教育活動全体を踏まえながら、カリキュラムを見直し、組織的に改善したり調整したりしている。
														○ 児童の活動の姿や思考の流れを想定し、教材やICT等の効果的な活用場面等を考えながら、学習指導案を作成している。	○ 児童の心身の発達や学習過程に関して理解するとともに、児童の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、様々な教材やICT等の効果的な活用や評価方法を取り入れた授業を構想している。	○ 児童一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着のために、指導と評価の一体化を図り、教材等の開発やICT等の効果的な活用に取り組み、創意工夫のある授業を構想している。	○ 児童一人一人の発達や個性等をより多面的に理解して信頼関係を構築し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるよう意図的・計画的に指導・支援をするとともに、若手教員に助言をしている。	○ これまでの実践や経験を基に、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高め、ICT等の効果的な活用方法と学習評価の研究に努め、改善につながる助言をしている。
														○ 基本的な指導技術を身に付け、児童の学習の様子を把握しながら授業を実践しようとしている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、発問・指示・説明・板書・児童とのやり取り・最新のICT等の指導技術を身に付け、活用している。	○ 最新の知見に基づき、新たに身に付けた指導技術、指導方法、評価方法を積極的に活用し、授業を展開するとともに、若手教員への助言・育成にあたっている。	○ 幅広い情報を基に、自分の指導技術、指導方法、評価方法を更新しつつ、新しい技術や方法を取り入れた範を積極的に示したり、学校全体の授業力向上を働きかけたりしている。	
														○ 児童の習得状況に応じた指導・支援の方法を理解している。	○ 児童の習得状況を目標に照らして評価し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための指導・支援をしている。	○ 学びの質や長期的な変容にも目を向け、ICT等を効果的に活用して一人一人の習得状況を的確に把握し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補足的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による質的な学習の深まりを把握し、意図的・計画的な指導・支援をしている。	
○ 授業を分析して改善する手立てを理解し、実践しようとしている。	○ 自分の授業を振り返り改善する習慣や、他の教職員の授業に学ぶ習慣が身に付いている。	○ 校内や都市の研究会等で研究授業を積極的に行うとともに、助言を受けて、自分の授業を客観的に評価し、授業改善につなげている。	○ 学校全体の授業改善に取り組む環境づくりに努め、教員の個性を生かす助言をしている。															
○ 児童理解の意義や、児童の心身の発達の過程・特徴について理解している。	○ 児童に向き合い、一人一人の人格を尊重し、共感的理解に努めて信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援をしている。	○ 児童の発達や個性等をより多面的に理解して信頼関係を構築し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるよう意図的・計画的に指導・支援をするとともに、若手教員に助言をしている。	○ 児童を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で児童の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。															
○ 担任の職務内容や集団づくりの意義を理解し、学級経営の基本的な指導方法を身に付けている。	○ 学級集団をはじめ、児童会やクラブ活動等の集団の経営方針を基に、それぞれ一貫性のある指導・支援をしている。	○ 異年齢集団等様々な集団活動について、よりよい集団に高め、集団相互の関わりを活性化させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。															
○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。	○ 様々な課題に気づき、児童、保護者、他の教職員と相談しながら、的確に課題解決を図っている。	○ 課題の未然防止や迅速な発見に努め、必要に応じて専門家と連携しながら課題解決を図り、その様々な方策について、若手教員に助言をしている。	○ 学校が直面する様々な課題を把握し、組織的できめ細やかな指導・支援が行われるよう働きかけている。															
○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた学習の場を設定し、児童の自己有用感を高めつつ、自立した生活、社会の形成における自己の役割について理解できる素地を育てる指導をしている。	○ 発達段階に応じて、グローバルな視野と低・中・高学年のキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、異年齢集団を組織したり、他職種や家庭、地域、企業、関係機関等との連携を図ったりしながら、あらゆる教育活動を通じて指導・支援をしている。	○ 学校の教育活動全体を通じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた指導が充実するよう、助言をしている。															
○ 特別支援教育の理念や動向、特別支援教育に関連する基礎的な用語や、個に応じた指導・支援の必要性を理解している。	○ 児童の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、他の教職員とともに本人・保護者のニーズを踏まえた個別的教育支援計画や個別の指導計画を立案して、個に応じた指導・支援に取り組んでいる。	○ 児童の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、合理的配慮の視点から校内での連絡・調整を行うなどして、学校生活全体を通じて個に応じた支援を行っている。	○ 個々の児童に対する合理的配慮の実施について助言したり、障がい者理解の促進について、家庭や地域への発信に努めたりしている。															
○ 関係する校務分掌(特別支援教育コーディネーター等)や、関係機関(医療・福祉・労働)のそれぞれの役割を理解している。	○ 保護者や特別支援教育コーディネーター、他の教職員と連携・協働しながら、指導・支援に取り組んだり、児童同士の相互理解が深まるような交流及び共同学習に取り組んだりしている。	○ 校内委員会等で情報共有を行ったり、外部の専門家や関係機関と連携したりして、ケース会議等を実施している。	○ インクルーシブ教育システム構築に向け、関係機関等と連携しながら、学校全体で児童を支援する体制の整備を推進している。															
○ 学びに困難を抱える児童への配慮を理解し、基本的な指導・支援の方法を理解している。	○ 他の教職員と協働し、児童の学習上のつまずきに対する配慮や支援、教材づくりに積極的に取り組み、意欲的・主体的に学ぶ授業づくりを行っている。	○ アセスメントに基づき指導目標を明確化し、担任・担当間で積極的に授業改善を行うとともに、児童の得意な面を認めることにより、学習意欲の向上につながる支援をしている。	○ 児童一人一人の実態に応じた目標設定、教材教具の工夫、指導方法、称賛・承認の方法等について、若手教員に助言している。															
○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、発達障がい等の特性による生活上の困難や、問題行動への基本的な支援方法を理解している。	○ 児童が見通しをもって学校生活を過ごせるように、教室環境の整備や学級内ルールの明確化を図るとともに、コミュニケーションスキル向上等に関する指導を行っている。	○ 特別な配慮や支援を必要とする児童を含む全ての児童の望ましい行動を育てるために、ポジティブ行動支援の手法を用いて、課題の解決や問題の予防に取り組んでいる。	○ 個別支援や、ポジティブ行動支援の実践について、全教職員で指導の効果を確証し、児童の効果を共に喜び合う機会を計画的に設定している。															
○ 児童の活動の姿や思考の流れを踏まえ、ICTの活用場面等を想定しながら、学習指導案を作成している。	○ 児童の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、ICTを積極的に取り入れた授業を構想している。	○ 児童一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図るため、学習内容に応じて、ICTを適切かつ効果的に活用した創意工夫のある授業を実践している。	○ これまでの実践や経験をもとに、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高めるとともに、ICTの効果的な活用方法の研究に努め、授業改善につながる助言をしている。															
○ 学習指導に必要なアプリケーションや情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、積極的にICTを活用した指導を実践するとともに、蓄積した教育データを学習評価につなげている。	○ 最新の知見に基づき、ICTを効果的に活用した授業を実践するとともに、学びの質や長期的な変容に関する教育データを分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補足的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの向上についての研究に努め、助言をしている。															
○ 学校業務に必要なアプリケーション操作や情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、学級事務、校務において、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスを利活用している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの多くの機能を活用して効率的に業務を遂行している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの効率的な利活用について教職員に提案している。															

素養

ICTの利活用

特別な配慮・支援

授業力・学習指導

担任力・生徒指導

高等学校・中等教育学校(後期)教諭

資質・能力	キャリアステージ	採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞		＜第2ステージ＞		＜第3ステージ＞										
			基盤形成期	伸長・充実期	深化・発展期	熟達期											
A 使命感・倫理観	B 職業見学・学び続ける力	C 社会性・コミュニケーション力	D 学校組織マネジメント力	E 連携・協働力	F 危機管理能力	○ 教育的愛情と熱意をもって教育活動に臨もうとしている。	○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人財」の育成を目指し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。									
						○ 社会人としての常識やマナー、道徳性(情報モラルを含む。)を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。	○ 教育公務員としての自覚をもち、法令やセキュリティポリシー等を遵守するとともに、誠実かつ公正に職責を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。									
						○ 学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○ 知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。	○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。									
						○ コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的に関わり、助け合っている。	○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。									
						○ 自他を大切にし、人権感覚を身に付け、互いに尊重し合う人間関係を築いている。	○ 生徒一人一人の抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。									
						○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○ スクール・ミッションやスクール・ポリシーを理解し、日々の業務についての報告・連絡・相談を適切に行いながら、教育活動に協働して取り組んでいる。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。									
A カリキュラム・マネジメント力	B 授業構想力	C 授業実践力	D 授業省察力・改善力	A 児童生徒理解・指導力	B 集団づくり力	C 課題解決力	D 未来ビジョン育成力	A 個に応じた指導・支援力	B チームによる実践	E 多様性に基づく学習支援力	F 多様性に基づく生活支援力	A ICTを学習指導に活用する力	B ICTを効率的な業務の遂行に活用する力	○ 学習指導要領の「目標」「内容」や系統等を理解している。	○ 学校教育目標を踏まえつつ、生徒の実態に応じ、作成の意図を考えながら、学校のカリキュラムを活用している。	○ 学校教育目標を踏まえ、各学年間の系統や幼・小・中・高の接続を見通して、学校の特色を生かした創意工夫のあるカリキュラムを作成している。	○ 地域の実態や学校教育目標・学校の教育活動全体を踏まえながら、カリキュラムを見直し、組織的に改善したり調整したりしている。
														○ 学力調査・学校評価等の結果を、日々の授業改善に結び付けている。	○ 学力調査・学校評価等の結果に基づき、学年や担当教科等の中心となって、長期的・継続的な改善策を提案し実践している。	○ 学力調査・学校評価等の結果に基づき、学校の課題を把握し、改善策を組織的に展開している。	
														○ 生徒の活動の姿や思考の流れを想定し、教材やICT等の効果的な活用場面等を分析しながら、学習指導案を作成している。	○ 生徒の心身の発達や学習過程に関して理解するとともに、生徒の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、様々な教材やICT等の効果的な活用や評価方法を取り入れた授業を構想している。	○ 生徒一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着のために、指導と評価の一体化を図り、教材等の開発やICT等の効果的な活用に取り組み、創意工夫のある授業を構想している。	○ これまでの実践や経験を基に、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高め、ICT等の効果的な活用方法や学習評価の研究に努め、改善につながる助言をしている。
														○ 基本的な指導技術を身に付け、生徒の学習の様子を把握しながら授業を実践しようとしている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、発問・指示・説明・板書・生徒とのやり取り・最新のICT等の指導技術を身に付け、活用している。	○ 最新の知見に基づき、新たに身に付けた指導技術、指導方法、評価方法を積極的に活用し、授業を展開するとともに、若手教員への助言・育成にあたっている。	○ 幅広い情報を基に自分の指導技術、指導方法や評価方法を更新しつつ、新しい技術や方法を取り入れた範を積極的に示したり、学校全体の授業力向上を働きかけたりしている。
														○ 生徒の習得状況に応じた指導・支援の方法を理解している。	○ 生徒の習得状況や目標を照らして評価し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための指導・支援をしている。	○ 学びの質や長期的な変容にも目を向け、ICT等を効果的に活用して一人一人の習得状況を的確に把握し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補充的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による質的な学習の深まりを把握し、意図的・計画的な指導・支援をしている。
														○ 授業を分析して改善する手立てを理解し、実践しようとしている。	○ 自分の授業を振り返り改善する習慣や、他の教職員の授業に学ぶ習慣が身に付いている。	○ 研究会等で研究授業を積極的に行うとともに、助言を受けて、自分の授業を客観的に評価し、授業改善につなげている。	○ 学校全体の授業改善に取り組む環境づくりに努め、教員の個性を生かす助言をしている。
A 児童生徒理解・指導力	B 集団づくり力	C 課題解決力	D 未来ビジョン育成力	A 個に応じた指導・支援力	B チームによる実践	E 多様性に基づく学習支援力	F 多様性に基づく生活支援力	A ICTを学習指導に活用する力	B ICTを効率的な業務の遂行に活用する力	○ 生徒理解の意義を理解し、生徒指導や教育相談等の基本的な方法を身に付けている。	○ 生徒に向き合い、一人一人の人格を尊重し、共感的理解に努めて信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援をしている。	○ 生徒の発達や個性等をより多面的に理解して信頼関係を構築し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるよう意図的・計画的に指導・支援するとともに、若手教員に助言をしている。	○ 生徒を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で生徒の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。				
										○ 担任の職務内容や集団づくりの意義を理解し、ホームルーム経営の基本的な指導方法を身に付けている。	○ ホームルームをはじめ、生徒会や部活動等の集団の経営方針を基に、それぞれ一貫性のある指導・支援をしている。	○ 様々な集団活動について、よりよい集団に高め、集団相互の関わりを活性化させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的な方策を提案している。				
										○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。	○ 様々な課題に気づき、生徒、保護者、他の教職員と相談しながら、的確に課題解決を図っている。	○ 課題の未然防止や迅速な発見に努め、必要に応じて専門家と連携しながら課題解決を図り、その様々な方策について若手教員に助言をしている。	○ 学校が直面する様々な課題を把握し、組織的できめ細やかな指導・支援が行われるよう働きかけている。				
										○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた学習の場を設定し、生徒が勤労観・職業観を確立するとともに、自立した生活、社会における自己の役割についての認識を深め、社会を形成する一員として主体的に行動できるよう指導している。	○ 発達段階に応じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、社会的な自立に向けて、家庭、地域、企業、関係機関等との連携を図りながら、あらゆる教育活動を通じて指導・支援をしている。	○ グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点に基づいた指導が充実するよう助言するとともに、家庭、地域、企業、関係機関等と連携した指導・支援を推進している。				
										○ 特別支援教育の理念や動向、特別支援教育に関連する基礎的な用語や、個に応じた指導・支援の必要性を理解している。	○ 生徒の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、他の教職員とともに本人・保護者のニーズを踏まえた個別的教育支援計画や個別の指導計画を立案して、個に応じた指導・支援に取り組んでいる。	○ 生徒の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、合理的配慮の観点から校内での連絡・調整を行うなどして、学校生活全体を通じて個に応じた支援を行っている。	○ 個々の生徒に対する合理的配慮の実施について助言したり、障がい者理解の促進について、家庭や地域への発信に努めたりしている。				
										○ 関係する校内分掌(特別支援教育コーディネーター等)や、関係機関(医療・福祉・労働)のそれぞれの役割を理解している。	○ 保護者や特別支援教育コーディネーター、他の教職員と連携・協働しながら、指導・支援に取り組んでいる。	○ 校内委員会等で情報共有を行ったり、外部の専門家や関係機関と連携したりして、ケース会議等を実施している。	○ インクルーシブ教育システム構築に向け、関係機関等と連携しながら、学校全体で生徒を支援する体制の整備を推進している。				
A ICTを学習指導に活用する力	B ICTを効率的な業務の遂行に活用する力	○ 学びに困難を抱える生徒への配慮を理解し、基本的な指導・支援の方法を理解している。	○ 他の教職員と協働し、生徒の学習上のつまずきに対する配慮や支援、教材づくりに積極的に取り組み、意欲的・主体的に学ぶ授業づくりを行っている。	○ 個々の生徒への合理的配慮に基づき、板書やプリントの工夫、作業的な内容の取り入れ、学習環境の配慮等を実施し、成就感や達成感につなげる支援をしている。	○ 個々の生徒に対する学習指導上の合理的配慮の実施について、若手教員に助言している。												
		○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、発達障がい等の特性による生活上の困難や、問題行動への基本的な支援方法を理解している。	○ 生徒が安心して生活できるように、教室環境の整備やホームルーム内ルールの明確化を図るとともに、コミュニケーションスキルの向上や感情のコントロール等に関する指導を行っている。	○ 特別な配慮や支援を必要とする生徒の二次的な問題は、周りの環境に起因している事を理解し、生徒の自尊感情に配慮しながら、早期に適切な対応を行っている。	○ 卒業後の自立と社会参加を目指した指導・支援の充実を図るため、社会生活や就労への適応力向上のための取組を組織的に展開している。												
		○ 生徒の活動の姿や思考の流れを踏まえ、ICTの活用場面等を想定しながら、学習指導案を作成している。	○ 生徒の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、ICTを積極的に取り入れた授業を構想している。	○ 生徒一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図るため、学習内容に応じて、ICTを適切かつ効果的に活用した創意工夫のある授業を実践している。	○ これまでの実践や経験を基に、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高めるとともに、ICTの効果的な活用方法の研究に努め、授業改善につながる助言をしている。												
		○ 学習指導に必要なアプリケーションや情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け積極的にICTを活用した指導を実践するとともに、蓄積した教育データを学習評価等につなげている。	○ 最新の知見に基づき、ICTを効果的に活用した授業を実践するとともに、学びの質や長期的な変容に関する教育データを分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補充的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの向上についての研究に努め、助言をしている。												
		○ 学校業務に必要なアプリケーション操作や情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、学級事務、校務において、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスを活用している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの多くの機能を活用して効率的に業務を遂行している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの効率的な活用について教職員に提案している。												

ICTの活用
特別な配慮・支援

特別支援学校教諭

キャリアステージ 資質・能力		採用時に本県が求める力		＜第1ステージ＞		＜第2ステージ＞		＜第3ステージ＞			
		養成期		基盤形成期		伸長・充実期		深化・発展期			
A	使命感・倫理観	○ 教育的愛情と熱意をもって教育活動に臨もうとしている。		○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人材」の育成を目指し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。		○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。		○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。			
		○ 社会人としての常識やマナー、道徳性(情報モラルを含む。)を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。		○ 教育公務員としての自覚をもち、法令やセキュリティポリシー等を遵守するとともに、誠実かつ公正に職責を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。		○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。		○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。			
		○ 学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。		○ 知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。		○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。		○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。		○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。	
		○ コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的に関わり、助け合っている。		○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。		○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。		○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。		○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。	
		○ 自他を大切に、人権感覚を身に付け、互いに尊重し合う人間関係を築いている。		○ 幼児児童生徒一人一人の抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくるとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。		○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。		○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。		○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。	
		○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。		○ 学校の経営方針を理解し、報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。		○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。		○ グループリーダーとして、創意工夫や企画力を発揮し、他のグループとも連携・調整をしながら、組織を活性化させている。		○ 学校教育目標の達成に向け、「チーム学校」としての組織力が発揮できるよう率先して工夫改善に努め、学校全体の教育計画の作成に参画している。	
D	学校組織マネジメント力	○ 校務分掌等の業務内容を理解し計画的に職務遂行に努めている。		○ 校務分掌等の業務を、周囲の教職員と調整しながら遂行している。		○ 校務分掌等の業務の工夫改善を図るとともに、若手教員に助言をしている。		○ 組織全体を俯瞰し、業務の効率化を推進している。			
		○ 家庭や地域と連携する重要性を理解し、ボランティア活動や地域の行事等へ参加している。		○ 互いの課題や悩みを解決するため情報交換を積極的に行うとともに、先輩教員に相談したり助言を求めたりしている。		○ 互いの課題や学びの共有を図るとともに、若手教員の範となるよう努めている。		○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。			
E	連携・協働力	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。		○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。		○ 危機管理に対する意識を高め、危険を予測して行動するとともに、安心・安全に配慮した環境づくりをしている。		○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。			
		○ 教育要領・学習指導要領の「目標」「内容」や系統等を理解している。		○ 学校教育目標を踏まえつつ、幼児児童生徒の実態に応じ、作成の意図を考えながら、学校のカリキュラムを活用している。		○ 学校教育目標を踏まえ、幼児児童生徒の実態や新たな教育課題に対応するため、目的や意図を明確にしたカリキュラムを提案している。		○ 地域の実態や学校教育目標・学校の教育活動全体を踏まえながら、カリキュラムを見直し、組織的に改善したり調整したりしている。			
B	授業構想力	○ 幼児児童生徒の障がいや発達段階に適した授業イメージをもち、個や場面に適した教材やICT等の効果的な活用場面等を考えながら、学習指導案を作成している。		○ アセスメントや客観的な根拠に基づいた幼児児童生徒の個別の指導計画や年間指導計画に沿って、ICT等の効果的な活用や評価方法を取り入れた日々の保育・授業(以下、授業と表記。)を構想している。		○ 幼児児童生徒一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図るために、指導と評価の一体化を図り、教材等の開発やICT等の効果的な活用に取り組み、創意工夫のある授業を構想している。		○ これまでの実践や経験を基に、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高め、教材やICT等の効果的な活用方法や学習評価の研究に努め、改善につながる助言をしている。			
		○ 基本的な指導技術を身に付け、幼児児童生徒の学習の様子を把握しながら授業を実践しようとしている。		○ 各授業において目標設定や指導内容・方法を考え、個々の幼児児童生徒の実態に即した教材・教具の活用による適切な指導・支援をしている。		○ 学びの質や長期的な変容にも目を向け、幼児児童生徒一人一人の習得状況を把握するとともに、新しい指導技術・指導方法・評価方法を積極的に取り入れ、適切に補充的・発展的な指導・支援をしている。		○ 幅広い情報を基に自分の指導技術、指導方法、評価方法を更新しつつ、新しい技術や方法を取り入れた範を積極的に示したり、学校全体の授業力向上を働きかけたりしている。			
C	授業実践力	○ 授業を分析して改善する手立てを理解し、実践しようとしている。		○ 授業の目標に沿った具体的な学習成果の記録や自己評価を行い、授業改善を行っている。		○ 担任と幼児児童生徒に関わる教員間で指導の効果を確認しながら授業改善を行うとともに、幼児児童生徒の得意な面を認めることにより、学習意欲の向上につなげる支援を行っている。		○ 様々な障がいのある幼児児童生徒の授業について、学校全体の授業改善に取り組む環境づくりに努め、教員の個性を生かす助言をしている。			
		○ 幼児児童生徒理解の意義や心身の発達過程・特徴について理解している。		○ 幼児児童生徒に向き合い、一人一人の人格を尊重し、共感的理解に努めて信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援をしている。		○ 幼児児童生徒の発達や個性等をより多面的に理解して信頼関係を構築し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるよう意図的・計画的に指導・支援をするとともに、若手教員に助言をしている。		○ 幼児児童生徒を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で幼児児童生徒の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。			
A	幼児児童生徒理解・指導力	○ 特別支援教育の理念、動向、関連する基礎的な用語を理解している。		○ 一斉授業において、個別目標に対応した題材を設定したり、役割をもたせたりして、集団づくりの工夫を行っている。		○ 内容により学級、学年、学部で行うもの、他の学部と合同で行うもの等の集団構成を行い、幼児児童生徒同士のコミュニケーションを活発にし、自発的なコミュニケーションが増えるような集団づくりに積極的に取り組むとともに、若手教員に助言をしている。		○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。			
		○ 学校の生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。		○ 他の教職員や専門家のアドバイスを受けながら、特別支援教育の最新の知見に基づいた指導方法や指導技術を身に付けている。		○ 幼児児童生徒の望ましい行動を育てるために、ポジティブ行動支援の手法を用いて、課題の解決や問題の予防に取り組んでいる。		○ 学校が直面する様々な課題を把握し、その解決のために、個別的な支援や、ポジティブ行動支援の実践等、組織的できめ細やかな指導・支援を学校全体で取り組むように推進している。			
D	未来ビジョン育成力	○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。		○ 個別の教育支援計画や個別の指導計画にキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点からの目標を設定し、一人一人の社会的・職業的自立の目標達成に向け、日々の指導・支援をしている。		○ 発達段階に応じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、学校種をこえた連携や、家庭、地域、就労支援機関、企業、福祉施設、関係機関等との連携を図りながら、卒業後の社会的・職業的自立やQOLの向上を目指してあらゆる教育活動に取り組んでいる。		○ 学校の教育活動全体を通じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた指導や、卒業後の生活を見据えた指導・支援について、学校全体における取組を推進している。			
		○ 幼児児童生徒の実態把握の必要性を認識し、指導目標を明確にしようとしている。		○ 個々に応じたアセスメントにより、幼児児童生徒一人一人の障がい特性を知り、特に配慮を必要とする様々な状態を理解している。		○ 各種発達心理検査、一般職業適性検査結果の活用や、課題分析等の客観的な根拠に基づいた実態把握に取り組み、指導目標を明確にしている。		○ 障がい特性理解を深めるための効果的な研修の方策を理解し、教職員に研修を促したり、助言をしたりしている。			
F	チームによる組織力	○ 学校の生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、チームで協力して解決する必要性を理解している。		○ 医療的ケアを必要とする幼児児童生徒が安心・安全な学校生活を送るために、養護教諭や学校看護師と連携し、給食における指導や医療的ケア等に取り組んでいる。		○ 外部専門家のコンサルテーションを受けるなどして、問題行動をはじめとする個別の課題への対応や解決について、チームで積極的に取り組んでいる。		○ 学校が直面する様々な課題を把握し、その解決のために、組織的できめ細やかな指導・支援を関係機関や学校全体で1つのチームとして、取り組むように推進している。			
		○ 特別支援学校のセンター的機能の役割を理解している。		○ 自校におけるセンター的機能について、校内組織や活動内容を理解し、先輩教員とともに、地域の学校への理解・啓発に取り組んでいる。		○ 特別支援学校の有する自立活動の指導のノウハウ等を活かし、地域の園・小中高等学校等の特別な支援を必要とする幼児児童生徒に応じた適切な指導・支援について助言するとともに、関係機関との連携強化に取り組んでいる。		○ 特別支援教育における高い専門性を持つ後進の育成を推進するとともに、自校のセンター的機能が有効に発揮されるために、校内の組織体制の機能強化に取り組んでいる。			
G	センター的機能の推進力	○ 特別支援学校が取り組んでいる、家庭や地域、企業等と連携・協働した実践について知っている。		○ 家庭や地域との連携・協働の意義を踏まえ、家庭や地域と積極的に関わり、協働活動に取り組んでいる。		○ 地域の教育資源についての情報を把握し、「早期からのキャリア教育」「エンカール消費教育」「教福連携」「SDGs」等の取組において活用を図っている。		○ 近隣の地域や企業等と連携を進め、地域と一体化した「キャリア教育」に取り組んでいる。			
		○ 幼児児童生徒の活動の姿や思考の流れを踏まえ、ICTの活用場面等を想定しながら、学習指導案を作成している。		○ 幼児児童生徒の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、ICTを積極的に取り入れた授業を構想している。		○ 幼児児童生徒一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図るため、学習内容に応じて、ICTを適切かつ効果的に活用した創意工夫のある授業を他の教職員と協働し実践するとともに、様々な支援機器についての知識を高めている。		○ 単元・題材の開発や授業構想に関する専門性に加え、ICTの適切かつ効果的な実践・研究を生かした授業改善についての助言をしている。			
A	ICTを学習指導に活用する力	○ 学習指導に必要なアプリケーションや情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。		○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、積極的にICTを活用した指導を実践し、一人一人の障がい特性、困難さ、支援のニーズに応じた活用を行うとともに、蓄積した教育データを学習評価につなげている。		○ 最新の知見に基づきICTを効果的に活用した授業を実践するとともに、学びの質や長期的な変容に関する教育データを分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補充的・発展的な指導・支援をしたり、幼児児童生徒の成長や発達に応じて、きめ細やかに機器の調整を行ったりしている。		○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキル向上についての研究に努めるとともに、一人一人に応じた活用について助言をしている。			
		○ 学校業務に必要なアプリケーション操作や情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。		○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、学級事務、校務において、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスを活用している。		○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの多くの機能を活用して効率的に業務を遂行している。		○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの効率的な活用について教職員に提案している。			
B	ICTを効率的に業務の遂行に活用する力										

ICTの活用

特別支援の充実

担能力・生徒指導

キャリアステージ 資質・能力		採用時に本県が求める力		＜第1ステージ＞		＜第2ステージ＞		＜第3ステージ＞											
		養成期		基盤形成期		伸長・充実期		深化・発展期											
A 使命感・倫理観	B 学び続ける力	C 社会性・コミュニケーション力	D 学校組織マネジメント力	E 連携・協働力	F 危機管理能力	○ 教育的愛情と熱意をもって教育活動に臨もうとしている。	○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人材」の育成を目指し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。											
						○ 社会人としての常識やマナー、道徳性(情報モラルを含む。)を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。	○ 教育公務員としての自覚をもち、法令やセキュリティポリシー等を遵守するとともに、誠実かつ公正に職責を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。											
						○ 学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○ 知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。	○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。											
						○ コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的に関わり、助け合っている。	○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。											
						○ 自分を大切に、人権感覚を身に付け、互いに尊重し合う人間関係を築いている。	○ 児童生徒一人一人の抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。											
						○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○ 学校の経営方針を理解し、報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用しながら、組織を活性化させている。											
A 保健管理	B 保健教育	C 健康相談	D 保健室経営	E 保健組織活動	A 児童生徒理解・指導力	B 集団づくり力	C 課題解決力	D 未来ビジョン育成力	A 個に応じた指導・支援力	B チームによる実践	C 「わかった」「できた」を育む学習支援力	D 「わかった」「できた」を育む生活支援力	A ICTを学習指導に活用する力	B ICTを効率的な業務の遂行に活用する力	○ 家庭や地域と連携する重要性を理解し、ボランティア活動や地域の行事等へ参加している。	○ 家庭や地域との連携・協働の意義を踏まえ、家庭や地域と積極的に関わり、協働活動に取り組んでいる。	○ 地域の教育資源(人材・施設・伝統行事等)についての情報を把握し、その活用を図っている。	○ 家庭や地域に働きかけ、教育活動を充実させるためのネットワークを形成している。	○ 地域における学校の役割を認識し、家庭や地域と協働する教育活動を推進している。
															○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。	○ 危機管理に対する意識を高め、危険を予測して行動するとともに安全・安心に配慮した環境づくりをしている。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。	○ これまでの経験を生かし、地域と協働した創意工夫のある安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する取組を発信したり、危機管理体制づくりに参画したりしている。
															○ 学校保健安全法を理解し、児童生徒の実態把握の方法や基本的な保健管理の方法について知識と基礎的な技能を身に付けている。	○ 児童生徒の心身の実態を把握し、保健管理及び感染症の予防と対策、学校環境衛生活動を適切に行っている。	○ 保健情報を総合的に評価し、学校全体の実態を捉え、健康課題の解決に向けて校内の中心となって対応するとともに予防的措置を講じている。	○ 校内の教職員や近隣の学校の養護教諭と連携し、保健管理について指導的役割を果たすとともに、組織的に健康課題の解決を図っている。	
															○ 学習指導要領を踏まえ、養護教諭の専門性を生かして、保健教育を実践しようとしている。	○ 学級担任等と連携し、ICT等を効果的に活用しながら、養護教諭の専門性を生かして、個や集団を対象に保健教育を実践している。	○ 養護教諭の専門性を発揮し、児童生徒の実態に応じた保健教育を実施し、指導と評価の一体化を図るとともに、ICT等を効果的に用いて、家庭・地域へ広めている。	○ 社会状況の変化と実態に応じた全体計画の立案に積極的に参画し、組織的な実践・評価を通して、改善を図っている。	
															○ 学校保健安全法による健康相談の位置づけを理解し、心身の発達段階における健康課題に対する基本的な支援の方法を身に付けている。	○ 健康相談の基本的なプロセスを理解し、児童生徒の心身の発達段階の課題や現代的な健康課題との関連を踏まえた健康相談を実施している。	○ 心身の健康課題を総合的に捉え、校内支援体制の充実にも努めるとともに、学校医等の専門職や保護者と組織的に連携し、児童生徒に応じた支援方法を検討・評価しながら対応している。	○ 個々の健康課題から全体の課題を捉え、教職員の意識を高めるとともに、支援体制づくりに参画している。	
															○ 養護教諭の職務や役割、保健室の機能についてを理解し、保健室経営に取り組もうとしている。	○ 学校教育目標を踏まえ、保健室の役割等を理解し、保健室経営計画に沿った実践・評価をしている。	○ 学校教育目標を踏まえ、保健室経営の効果的な実践のため、最新の健康情報を得るとともに、工夫改善を図り、校内の健康教育のセンター的役割を果たしている。	○ 学校教育目標を踏まえ、近隣の養護教諭や関係機関等との連携を密にするとともに、地域のリーダー的役割を果たし、保健室経営を効果的に実践している。	
○ 保健組織活動の意義と学校保健に関する学校内外の協働体制の重要性を理解している。	○ 保健組織活動の意義を理解し、企画・運営に参画している。	○ 保健組織活動が効果的に実践できるよう内容の工夫改善を図るとともに、学校全体の健康課題の解決に向けて連携を推進している。また、保健組織活動について教職員や若手養護教諭に対して助言をしている。	○ 近隣の学校や関係機関と連携しながら地域の実情に応じた保健組織活動を推進している。																
○ 児童生徒理解の意義や、児童生徒の心身の発達の過程・特徴について理解している。	○ 児童生徒に向き合い、一人一人の人格を尊重し、共感的理解に努めて信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援をしている。	○ 児童生徒の発達や個性等をより多面的に理解して信頼関係を構築し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるよう意図的・計画的に指導・支援をする	○ 児童生徒を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で児童生徒の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。																
○ 集団づくりの意義や集団づくりの基本的な指導方法を理解している。	○ 学級担任等と連携しながら、学級集団をはじめ、児童会・生徒会やクラブ活動等の集団の経営方針を基に、それぞれ一貫性のある指導・支援をしている。	○ 異年齢集団等様々な集団活動の指導に積極的に関わり、よりよい集団に高め、集団相互の関わりを活性化させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。																
○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。	○ 児童生徒の心身の健康課題を早期に発見し、保護者、他の教職員等と相談しながら、的確に課題解決を図っている。	○ 児童生徒の心身の健康問題を早期に発見し、疾患の予防等の課題解決に向け、必要に応じて専門家と連携しながら課題解決を図り、その様々な方策について若手教員に助言をしている。	○ 学校が直面する様々な課題に対し、組織的できめ細やかな指導・支援が行われるよう働きかけている。																
○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた学習の場を設定し、児童生徒の自己有用感を高めつつ、自立した生活、社会の形成における自己の役割について理解できるよう指導をし自覚を促している。	○ 発達段階に応じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、異年齢集団を組織したり、他校種や家庭、地域、企業、関係機関等との連携を図ったりしながら、あらゆる教育活動を通じて指導・支援をしている。	○ 学校の教育活動全体を通じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた指導が充実するよう、助言をしている。																
○ 特別支援教育の理念や動向、特別支援教育に関連する基礎的な用語や、個に応じた指導・支援の必要性を理解している。	○ 児童生徒の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、他の教職員とともに本人・保護者のニーズを踏まえ、個に応じた指導・支援に取り組んでいる。	○ 児童生徒の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、合理的配慮の視点から校内での連絡・調整を行うなどして、学校生活全体を通じて個に応じた支援を行っている。	○ 個々の児童生徒に対する合理的配慮の実施について助言したり、障がい者理解の促進について、家庭や地域への発信に努めたりしている。																
○ 関係する校務分掌(特別支援教育コーディネーター等)や、関係機関(医療・福祉・労働)のそれぞれの役割を理解している。	○ 保護者や特別支援教育コーディネーター、他の教職員と連携・協働しながら、指導・支援に取り組んでいる。	○ 校内委員会等で情報共有を行ったり、外部の専門家や関係機関と連携したりして、ケース会議等を実施している。	○ インクルーシブ教育システム構築に向け、関係機関等と連携しながら、学校全体で児童生徒を支援する体制の整備を推進している。																
○ 学びに困難を抱える児童生徒への配慮を理解し、基本的な指導・支援の方法を理解している。	○ 他の教職員と協働し、児童生徒の学習上のつまずきに対する配慮や支援、教材づくりに積極的に取り組み、意欲的・主体的に学ぶ授業づくりを行っている。	○ アセスメントに基づき指導目標を明確化し、担任・担当間で積極的に授業改善を行うとともに、児童生徒の得意な面を認めることにより、学習意欲の向上につなげる支援をしている。	○ 児童生徒一人一人の実態に応じた目標設定、教材教員の工夫、指導方法、称賞・承認の方法等について、若手教員に助言している。																
○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、発達障がい等の特性による生活上の困難や、問題行動への基本的な支援方法を理解している。	○ 児童生徒が見通しをもって学校生活を送れるように、保健室環境の整備や保健室内ルールの明確化を図るとともに、コミュニケーションスキル向上等に関する指導を行っている。	○ 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒を含む全ての児童生徒の望ましい行動を育てるために、ポジティブ行動支援の手法を用いて、課題の解決や問題の予防に取り組んでいる。	○ 個別支援や、ポジティブ行動支援の実践について、全教職員で指導の効果を確信し、児童生徒の成長を共に喜び合う機会を計画的に設定している。																
○ 児童生徒の活動の姿や思考の姿を捉え、ICTの活用場面等を想定しながら、学習指導案を作成している。	○ 児童生徒の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、ICTを積極的に取り入れた授業を構想している。	○ 児童生徒一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図るため、学習内容に応じて、ICTを適切かつ効果的に活用した創意工夫のある授業を実践している。	○ これまでの実践や経験をもとに、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高めるとともに、ICTの効果的な活用方法の研究に努め、授業改善につながる助言をしている。																
○ 学習指導に必要なアプリケーションや情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、学級担任等と連携し、積極的にICTを活用した指導を実践している。	○ 学級担任等と連携し、最新の知見に基づきICTを効果的に活用した授業を実践するとともに、学びの質や長期的な変容に関する教育データを分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補足的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの向上についての研究に努め、助言をしている。																
○ 学校業務に必要なアプリケーション操作や情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、学校保健に関する業務、校務において、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスを利活用している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの多くの機能を活用して効率的に業務を遂行している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの効率的な利活用について教職員に提案している。																

ICTの活用

特別な配慮・支援

専門的職務実践力・学習指導

担任力・生徒指導

キャリアステージ	採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞		＜第2ステージ＞		＜第3ステージ＞		
		養成期	基礎形成期	伸長・充実期	深化・発展期	熟達期	熟達期	
A 使命感・倫理観	○ 教育的愛情と熱意をもって教育活動に臨もうとしている。	○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人財」の育成を目指し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。	
	○ 社会人としての常識やマナー、道徳性(情報モラルを含む。)を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。	○ 教育公務員としての自覚をもち、法令やセキュリティポリシー等を遵守するとともに、誠実かつ公正に職責を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。
	○ 学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○ 知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。	○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。	○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。	○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。	○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。	○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。	○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。
	○ コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的に関わり、助け合っている。	○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。
	○ 自分を大切に、人権感覚を身に付け、互いに尊重し合う人間関係を築いている。	○ 児童生徒一人一人の抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。
	○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○ 学校の経営方針を理解し、報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。
D 学校組織マネジメント力	○ 校務分掌等の業務内容を理解し、計画的に職務遂行に努めている。	○ 校務分掌等の業務を、周囲の教職員と調整しながら遂行している。	○ 校務分掌等の業務の工夫改善を図るとともに、若手教員に助言をしている。	○ 校務分掌等の業務の工夫改善を図るとともに、若手教員に助言をしている。	○ 校務分掌等の業務の工夫改善を図るとともに、若手教員に助言をしている。	○ 校務分掌等の業務の工夫改善を図るとともに、若手教員に助言をしている。	○ 校務分掌等の業務の工夫改善を図るとともに、若手教員に助言をしている。	
	○ 家庭や地域と連携の重要性を理解し、ボランティア活動や地域の行事等へ参加している。	○ 家庭や地域との連携・協働の意義を踏まえ、家庭や地域と積極的に関わり、協働活動に取り組んでいる。	○ 地域における学校の役割を認識し、家庭や地域と協働する教育活動を推進している。	○ 地域における学校の役割を認識し、家庭や地域と協働する教育活動を推進している。	○ 地域における学校の役割を認識し、家庭や地域と協働する教育活動を推進している。	○ 地域における学校の役割を認識し、家庭や地域と協働する教育活動を推進している。	○ 地域における学校の役割を認識し、家庭や地域と協働する教育活動を推進している。	○ 地域における学校の役割を認識し、家庭や地域と協働する教育活動を推進している。
E 連携・協働力	○ 互いの課題や悩みを解決するため情報交換を積極的に行うとともに、先輩教員に相談したり助言を求めたりしている。	○ 互いの課題や学びの共有を図るとともに、若手教員の範となるよう努めている。	○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。	
	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応・衛生管理等をはじめ危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応・衛生管理等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。
F 危機管理能力	○ 学習指導要領における食育の位置付けと、食育全体計画作成時の栄養教諭の役割を理解している。	○ 学校教育目標を踏まえつつ、児童生徒の実態に応じた食育全体計画を作成し、学級担任等と連携しながら、給食時間の指導及び教科等における食に関する授業に、ICT等を効果的に活用し、参画している。	○ 食育がより効果的に行われるよう、高い専門性を生かし、助言をしている。	○ 食育がより効果的に行われるよう、高い専門性を生かし、助言をしている。	○ 食育がより効果的に行われるよう、高い専門性を生かし、助言をしている。	○ 食育がより効果的に行われるよう、高い専門性を生かし、助言をしている。	○ 食育がより効果的に行われるよう、高い専門性を生かし、助言をしている。	
	○ ICT等を効果的に活用し、食に関する指導の学習指導案作成や教材研究を行っている。	○ 指導を振り返ったり他の教職員の授業を自分の指導の改善に生かしたりしている。	○ 校内及び市町村研究会等で、授業や実践発表を積極的に行うとともに、社会状況の変化に合わせた最新の知識や指導技術を取り入れ、指導の改善をしている。	○ 校内及び市町村研究会等で、授業や実践発表を積極的に行うとともに、社会状況の変化に合わせた最新の知識や指導技術を取り入れ、指導の改善をしている。	○ 校内及び市町村研究会等で、授業や実践発表を積極的に行うとともに、社会状況の変化に合わせた最新の知識や指導技術を取り入れ、指導の改善をしている。	○ 校内及び市町村研究会等で、授業や実践発表を積極的に行うとともに、社会状況の変化に合わせた最新の知識や指導技術を取り入れ、指導の改善をしている。	○ 校内及び市町村研究会等で、授業や実践発表を積極的に行うとともに、社会状況の変化に合わせた最新の知識や指導技術を取り入れ、指導の改善をしている。	
F 教科等における教育指導	○ 児童生徒の食生活の現状を認識し、個に応じた相談指導の重要性を理解している。	○ 個別的な相談指導の流れを理解し、学級担任や養護教諭等と相談しながら、適切な対応をしている。	○ 個別的な相談指導の実践に関し、近隣の栄養教諭や栄養教諭未配置校の教職員等に対し、経験を基に助言をしている。	○ 個別的な相談指導の実践に関し、近隣の栄養教諭や栄養教諭未配置校の教職員等に対し、経験を基に助言をしている。	○ 個別的な相談指導の実践に関し、近隣の栄養教諭や栄養教諭未配置校の教職員等に対し、経験を基に助言をしている。	○ 個別的な相談指導の実践に関し、近隣の栄養教諭や栄養教諭未配置校の教職員等に対し、経験を基に助言をしている。	○ 個別的な相談指導の実践に関し、近隣の栄養教諭や栄養教諭未配置校の教職員等に対し、経験を基に助言をしている。	
	○ 学校給食法を理解し、安全安心な学校給食管理を実践しようとしている。	○ 学校給食実施基準に基づき、食品構成や調理作業工程を考慮した献立を作成している。	○ 学校給食の運営管理に関し、各校や所属する市町村において指導的役割を果たしている。	○ 学校給食の運営管理に関し、各校や所属する市町村において指導的役割を果たしている。	○ 学校給食の運営管理に関し、各校や所属する市町村において指導的役割を果たしている。	○ 学校給食の運営管理に関し、各校や所属する市町村において指導的役割を果たしている。	○ 学校給食の運営管理に関し、各校や所属する市町村において指導的役割を果たしている。	
H 学校給食の管理	○ 学校給食に必要な調理技術を身に付けている。	○ 学校給食衛生管理基準に基づき、関係機関と連携しながら適切な指導・助言及び管理を行っている。	○ 食に関する指導と学校給食の管理の相乗効果が得られるよう、教職員及び家庭、地域との連携を強化している。	○ 食に関する指導と学校給食の管理の相乗効果が得られるよう、教職員及び家庭、地域との連携を強化している。	○ 食に関する指導と学校給食の管理の相乗効果が得られるよう、教職員及び家庭、地域との連携を強化している。	○ 食に関する指導と学校給食の管理の相乗効果が得られるよう、教職員及び家庭、地域との連携を強化している。	○ 食に関する指導と学校給食の管理の相乗効果が得られるよう、教職員及び家庭、地域との連携を強化している。	
	○ 食に関する指導と学校給食の管理の一体的な展開	○ 食に関する指導と学校給食の管理の一体的な展開	○ 食に関する指導と学校給食の管理の一体的な展開	○ 食に関する指導と学校給食の管理の一体的な展開	○ 食に関する指導と学校給食の管理の一体的な展開	○ 食に関する指導と学校給食の管理の一体的な展開	○ 食に関する指導と学校給食の管理の一体的な展開	
I 食に関する指導と学校給食の管理の一体的な展開	○ 食育を推進するための、学校内外の連携の方法や重要性を理解している。	○ 食育コーディネーターとして、市町村学校食育推進委員会の運営に関わっている。	○ 食育コーディネーターの指導的立場となり、関係機関と連携を図りながら、市町村学校食育推進委員会の運営に中心となって関わっている。	○ 食育コーディネーターの指導的立場となり、関係機関と連携を図りながら、市町村学校食育推進委員会の運営に中心となって関わっている。	○ 食育コーディネーターの指導的立場となり、関係機関と連携を図りながら、市町村学校食育推進委員会の運営に中心となって関わっている。	○ 食育コーディネーターの指導的立場となり、関係機関と連携を図りながら、市町村学校食育推進委員会の運営に中心となって関わっている。	○ 食育コーディネーターの指導的立場となり、関係機関と連携を図りながら、市町村学校食育推進委員会の運営に中心となって関わっている。	
	○ 児童生徒理解の意義や、児童生徒の心身の発達過程・特徴について理解している。	○ 児童生徒に引き合い、一人一人の人格を尊重し、共感的理解に努めて信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援をしている。	○ 児童生徒を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で児童生徒の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。	○ 児童生徒を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で児童生徒の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。	○ 児童生徒を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で児童生徒の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。	○ 児童生徒を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で児童生徒の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。	○ 児童生徒を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で児童生徒の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。	
A 児童生徒理解・指導	○ 集団づくりの意義や集団づくりの基本的な指導方法を理解している。	○ 学級担任等と連携しながら、集団づくりの経営方針に沿ってよりよい集団に育てるために指導・支援をしている。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。	
	○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。	○ 様々な課題に気づき、児童生徒、保護者、他の教職員と相談しながら、的確に課題解決を図っている。	○ 学校の直面する様々な課題を把握し、組織的できめ細やかな指導・支援が行われるよう働きかけている。	○ 学校の直面する様々な課題を把握し、組織的できめ細やかな指導・支援が行われるよう働きかけている。	○ 学校の直面する様々な課題を把握し、組織的できめ細やかな指導・支援が行われるよう働きかけている。	○ 学校の直面する様々な課題を把握し、組織的できめ細やかな指導・支援が行われるよう働きかけている。	○ 学校の直面する様々な課題を把握し、組織的できめ細やかな指導・支援が行われるよう働きかけている。	
C 課題解決力	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた学習の場を設け、自立した生活、社会の形成における自己の役割について理解できるよう指導し、自覚を促している。	○ 学校の教育活動全体を通じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、学校種をこえた連携や、家庭、地域、企業、関係機関等との連携を図りながら、あらゆる教育活動を通じて指導・支援をしている。	○ 学校の教育活動全体を通じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、学校種をこえた連携や、家庭、地域、企業、関係機関等との連携を図りながら、あらゆる教育活動を通じて指導・支援をしている。	○ 学校の教育活動全体を通じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、学校種をこえた連携や、家庭、地域、企業、関係機関等との連携を図りながら、あらゆる教育活動を通じて指導・支援をしている。	○ 学校の教育活動全体を通じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、学校種をこえた連携や、家庭、地域、企業、関係機関等との連携を図りながら、あらゆる教育活動を通じて指導・支援をしている。	○ 学校の教育活動全体を通じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、学校種をこえた連携や、家庭、地域、企業、関係機関等との連携を図りながら、あらゆる教育活動を通じて指導・支援をしている。	
	○ 特別支援教育の理念や動向、特別支援教育に関連する基礎的な用語や、個に応じた指導・支援の必要性を理解している。	○ 児童生徒の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、他の教職員とともに本人・保護者のニーズを踏まえ、個に応じた指導・支援に取り組んでいる。	○ 個々の児童生徒に対する合理的配慮の実施について助言したり、障がい者理解の促進について、家庭や地域への発信に努めたりしている。	○ 個々の児童生徒に対する合理的配慮の実施について助言したり、障がい者理解の促進について、家庭や地域への発信に努めたりしている。	○ 個々の児童生徒に対する合理的配慮の実施について助言したり、障がい者理解の促進について、家庭や地域への発信に努めたりしている。	○ 個々の児童生徒に対する合理的配慮の実施について助言したり、障がい者理解の促進について、家庭や地域への発信に努めたりしている。	○ 個々の児童生徒に対する合理的配慮の実施について助言したり、障がい者理解の促進について、家庭や地域への発信に努めたりしている。	
A 個に応じた指導・支援力	○ 関係する校内分掌(特別支援教育コーディネーター等)や、関係機関(医療・福祉・労働)のそれぞれの役割を理解している。	○ 保護者や特別支援教育コーディネーター、他の教職員と連携・協働しながら、指導・支援に取り組んでいる。	○ インクルーシブ教育システム構築に向け、関係機関等と連携しながら、学校全体で児童生徒を支援する体制の整備を推進している。	○ インクルーシブ教育システム構築に向け、関係機関等と連携しながら、学校全体で児童生徒を支援する体制の整備を推進している。	○ インクルーシブ教育システム構築に向け、関係機関等と連携しながら、学校全体で児童生徒を支援する体制の整備を推進している。	○ インクルーシブ教育システム構築に向け、関係機関等と連携しながら、学校全体で児童生徒を支援する体制の整備を推進している。	○ インクルーシブ教育システム構築に向け、関係機関等と連携しながら、学校全体で児童生徒を支援する体制の整備を推進している。	
	○ 学びに困難を抱える児童生徒への配慮を理解し、基本的な指導・支援の方法を理解している。	○ 他の教職員と協働し、児童生徒の学習上のつまずきに対する配慮や支援、教材づくりに積極的に取り組み、意欲的・主体的に学ぶ授業づくりを行っている。	○ 児童生徒一人一人の実態に応じた目標設定、教材教具の工夫、指導方法、称賞・承認の方法等について、若手教員に助言をしている。	○ 児童生徒一人一人の実態に応じた目標設定、教材教具の工夫、指導方法、称賞・承認の方法等について、若手教員に助言をしている。	○ 児童生徒一人一人の実態に応じた目標設定、教材教具の工夫、指導方法、称賞・承認の方法等について、若手教員に助言をしている。	○ 児童生徒一人一人の実態に応じた目標設定、教材教具の工夫、指導方法、称賞・承認の方法等について、若手教員に助言をしている。	○ 児童生徒一人一人の実態に応じた目標設定、教材教具の工夫、指導方法、称賞・承認の方法等について、若手教員に助言をしている。	
C 「わかった」「できた」を育む学習支援力	○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、発達障がい等の特性による生活上の困難や、問題行動への基本的な支援方法を理解している。	○ 児童生徒が見通しをもって学校生活を過ごせるように、環境の整備やルールの明確化を図るとともに、コミュニケーションスキル向上等に関する指導を行っている。	○ 個別支援や、ポジティブ行動支援の実践について、全教職員で指導の効果を確認し、児童生徒の成長と共に喜び合う機会を計画的に設定している。	○ 個別支援や、ポジティブ行動支援の実践について、全教職員で指導の効果を確認し、児童生徒の成長と共に喜び合う機会を計画的に設定している。	○ 個別支援や、ポジティブ行動支援の実践について、全教職員で指導の効果を確認し、児童生徒の成長と共に喜び合う機会を計画的に設定している。	○ 個別支援や、ポジティブ行動支援の実践について、全教職員で指導の効果を確認し、児童生徒の成長と共に喜び合う機会を計画的に設定している。	○ 個別支援や、ポジティブ行動支援の実践について、全教職員で指導の効果を確認し、児童生徒の成長と共に喜び合う機会を計画的に設定している。	
	○ 児童生徒の活動の姿や思考の流れを踏まえ、ICTの活用場面等を想定しながら、食に関する指導の学習指導案を作成している。	○ 児童生徒の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、ICTを積極的に取り入れた授業や給食時間の指導を構想している。	○ これまでの実践や経験をもとに、食に関する指導における単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高めるとともに、ICTの効果的な活用方法の研究に努め、授業改善につながる助言をしている。	○ これまでの実践や経験をもとに、食に関する指導における単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高めるとともに、ICTの効果的な活用方法の研究に努め、授業改善につながる助言をしている。	○ これまでの実践や経験をもとに、食に関する指導における単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高めるとともに、ICTの効果的な活用方法の研究に努め、授業改善につながる助言をしている。	○ これまでの実践や経験をもとに、食に関する指導における単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高めるとともに、ICTの効果的な活用方法の研究に努め、授業改善につながる助言をしている。	○ これまでの実践や経験をもとに、食に関する指導における単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高めるとともに、ICTの効果的な活用方法の研究に努め、授業改善につながる助言をしている。	
A ICTを学習指導に活用する力	○ 学習指導に必要なアプリケーションや情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、積極的にICTを活用した食に関する指導を実践するとともに、蓄積した教育データを学習評価につなげている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの向上についての研究に努め、助言をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの向上についての研究に努め、助言をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの向上についての研究に努め、助言をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの向上についての研究に努め、助言をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの向上についての研究に努め、助言をしている。	
	○ 栄養管理や衛生管理に必要なアプリケーション操作や情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、献立作成や発注業務、諸帳簿整備等に必要アプリケーションや学校業務支援システム、その他のクラウドサービス等を活用している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムの多くの機能やその他のクラウドサービス等を活用しており、近隣の栄養教諭等と情報共有をしながら、多くの機能を理解し効率的に業務を遂行している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムの多くの機能やその他のクラウドサービス等を活用しており、近隣の栄養教諭等と情報共有をしながら、多くの機能を理解し効率的に業務を遂行している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムの多くの機能やその他のクラウドサービス等を活用しており、近隣の栄養教諭等と情報共有をしながら、多くの機能を理解し効率的に業務を遂行している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムの多くの機能やその他のクラウドサービス等を活用しており、近隣の栄養教諭等と情報共有をしながら、多くの機能を理解し効率的に業務を遂行している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムの多くの機能やその他のクラウドサービス等を活用しており、近隣の栄養教諭等と情報共有をしながら、多くの機能を理解し効率的に業務を遂行している。	
B ICTを効率的な業務の遂行に活用する力								

ICTの活用

特別な配慮・支援

担任力・生徒指導

ICTの活用

特別な配慮・支援

担任力・生徒指導

ICTの活用

特別な配慮・支援

担任力・生徒指導

ICTの活用

特別な配慮・支援

担任力・生徒指導

ICTの活用

特別な配慮・支援

担任力・生徒指導

ICTの活用

特別な配慮・支援

担任力・生徒指導

ICTの活用

特別な配慮・支援

担任力・生徒指導

ICTの活用

特別な配慮・支援

担任力・生徒指導

ICTの活用

特別な配慮・支援

担任力・生徒指導

ICTの活用

特別な配慮・支援

担任力・生徒指導

ICTの活用

特別な配慮・支援

担任力・生徒指導

ICTの活用

特別な配慮・支援

担任力・生徒指導

ICTの活用

特別な配慮・支援

担任力・生徒指導

ICTの活用

特別な配慮・支援

担任力・生徒指導

ICTの活用

特別な配慮・支援

担任力・生徒指導

ICTの活用

特別な配慮・支援

担任力・生徒指導

ICTの活用

とくしま教員育成指標

管理職用

職位		教 頭	副校長	校 長
資質・能力				
素 養	A	使命感・責任感	○校長を補佐する自覚をもち、校務全般を把握するとともに、それらが円滑に機能するよう、責任感をもって自分の役割を果たしている。	○学校の最高責任者としての覚悟をもち、法令等に基づいて適正な学校経営を行い、よりよい児童生徒の育成に使命感をもって取り組んでいる。
	B	倫 理 観	○法令を遵守し、鋭い人権感覚のもと、誠実かつ公正に職務を遂行するとともに、教職員に対してもコンプライアンスに関する的確な指導をしている。	○鋭い人権感覚と規範意識に基づき、職務を遂行するとともに、教育公務員としての職責や義務を教職員に示している。
	C	リーダーシップ・決 断 力	○組織のリーダーとしての自覚をもち、的確で迅速な判断と指示を行い、校務を遂行している。	○豊かな人間性と経験に裏打ちされた高い識見に基づき、冷静に状況を見極めて最終決断をしている。
	D	先見性・識見	○最新の情報を収集し、学校に対する社会の要請を自覚し、情報を基に適切な判断をしている。	○学校を取り巻く状況を把握し、児童生徒の将来を見通した学校経営ビジョンの形成に生かしている。
	E	社会性・人間関係構築力	○家庭、地域、学校関係者や関係機関等との関係性を高め、協働的な関係を築いている。	○家庭、地域、学校関係者や関係機関等と広く関わり、信頼関係を築いている。
学校マネジメント力	A	企画経営力	○「徳島教育大綱」や「教育振興計画」の理念を理解し、校長の指導のもと、具体目標の立案やその実現に向けた方策を提案している。 ○常に新しいものを取り入れたり創り出したりするチャレンジ精神をもち、教育を取り巻く社会の変化に対応した企画力を備えている。 ○学校経営方針に基づき、学校や地域の実態を踏まえたカリキュラムマネジメントを推進するために、教職員に指導・助言し、学校全体で取り組む体制づくりをしている。 ○学校評価等の結果を分析し、PDCAサイクルに基づいて教育活動の改善を提案・実践している。	○「徳島教育大綱」や「教育振興計画」の趣旨を生かした中・長期的な経営ビジョンを明確にし、時代の潮流を見据えて学校経営方針を策定している。 ○国の動向や県の教育施策を熟知し、新たな教育環境を生み出す企画経営力を備えている。 ○学校経営方針に基づき、具体的目標や重点目標を掲げ、家庭や地域を巻き込んだカリキュラムマネジメントを確立している。 ○学校の教育活動や学校経営の課題を的確に把握するための計画的な評価改善に努め、新たな企画に生かしている。
	B	組織づくり力	○組織の全体像を把握するとともに、学校教育目標に沿った体制整備をしている。 ○組織運営に関わる外部・内部環境を把握し、学校の強みを見出している。 ○教員評価を実施し、その結果を基に一人一人のもつ能力を積極的に引き出すとともに、教職員の自己有用感を高め、「チーム学校」を活性化している。	○学校教育目標の実現のために、多面的な視点から組織を統括している。 ○組織全体を俯瞰し、学校の強みを生かした組織づくりを行っている。 ○学校の教育活動が効率よく最大の効果があげられるように、教員評価の結果を生かし、「チーム学校」を牽引している。
	C	危機管理能力	○災害や想定外の事態の発生に備え、最新の情報を収集し、訓練を工夫・実践するとともに、危機管理マニュアルを絶えず見直し、発生時には迅速に対応している。 ○学校運営上必要な校内人事・施設・事務(財務・文書等)を管理している。 ○学校環境の安全を絶えず点検し、課題について適切に対応している。	○災害や想定外の事態の発生に備え、危機管理体制を確立し、発生時には状況を見通し、的確な指示を出している。 ○学校経営上必要な所属職員の管理・監督を行い、施設・事務(財務・文書等)の管理状況を把握している。
	D	学 校 資 源 整 備 ・ 活 用 力	○教育予算を把握し、施設の適切な管理や予算運用をしている。 ○外部との様々な調整の実務担当者として、国・県の動向や地域の実態をいち早く把握し、実情に応じて学校資源を整備・活用している。	○学校資源を把握し、教育予算等を有効活用する中で、組織の持続・成長の方策を打ち出している。 ○学校、地域の人的・物的資源を正確に把握し、地域の状況に応じて、学校資源活用の方針を策定している。
	E	人 材 育 成 力	○経験を生かし、キャリアステージに応じた教職員の育成のために、客観的データ等に基づいて的確に指導・助言している。 ○人材発掘に努め、常に意図的・計画的に中核教員を育成している。 ○校長の指示のもと、教職員の資質・能力向上のための体制づくりに積極的に関わっている。	○教職員一人一人の資質・能力や実績を適切に把握し、人材活用に生かすとともに、それぞれに応じた受講奨励をしている。 ○それぞれの職務の立場から、教員のキャリアステージに応じた力量形成ができるよう指示をしている。 ○意図的・計画的な人材育成に努め、マネジメント能力に長けた学校リーダーを育成している。
	F	連 携 ・ 交 渉 力	○家庭、地域や関係機関等と連携し、情報を共有しながら、協働活動やコミュニティ・スクール運営に取り組んでいる。 ○家庭や地域との連携において、教職員を支援している。	○家庭、地域や関係機関等との協働活動やコミュニティ・スクールを積極的に推進し、地域に根ざした学校づくりを行っている。 ○教育委員会や関係機関等と適切に連携し、調整・折衝を行いながら学校の課題解決につなげている。
	G	職 場 環 境 づ くり 力	○教職員のICT等を活用した長時間労働解消やメンタルヘルスの保持増進に率先して取り組んでいる。 ○教職員間のコミュニケーションを活性化し、相互理解を促進するとともに、課題の解決や合意形成が協働的に行われるようにしている。	○ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、ICT等を積極的に活用した職場環境における課題の解決を図り、効率がよく働きやすい職場づくりをしている。 ○教職員間の関係性に配慮し、互いに信頼し、認め合う風通しのよい職場づくりを行っている。
	H	特 別 支 援 教 育 推 進 力	○合理的配慮について理解し、インクルーシブ教育システムの充実に取り組んでいる。 ○特別支援教育の研修や校内OJTを推進し、計画的に教職員を育成している。 ○校内支援委員会を組織し、定期的を開催するなど、校内支援体制の構築に取り組んでいる。	○特別支援教育の理念を理解し、学校教育目標や学校評価に、特別支援教育についての目標や方策を位置づけるとともに、評価・改善を行っている。 ○適切な人材配置と、計画的な人材育成を行っている。 ○リーダーシップを発揮しつつ、校内支援体制を確立させ、組織として十分機能するよう教職員を指導している。